

2021年準備教育 学部プログラム実施要項（連携大学用）

北海道大学，北海道教育大学，室蘭工業大学，小樽商科大学，帯広畜産大学，旭川医科大学及び北見工業大学（以下「連携大学」という。）は，本実施要項に基づき，2021年準備教育 学部プログラムを共同実施する。

1. 目的

各連携大学の学士課程へ入学予定の外国人留学生（日本人学生も受講可）に，入学後の学修及び生活に資する知識や異なる大学の学生間の相互支援ネットワーク形成の機会を提供することによって，日本の大学での円滑で自立した学習を支援する。

2. 実施期間

2021年5月24日（月）10：00～7月11日（日）23：59

3. 提供科目

本プログラムシラバス（別添3）のとおり。

4. 実施形式及び使用言語

日本語にて構成する教材を用い，オンラインで学習するeラーニング形式。

5. 受講対象者

- (1)各連携大学の学士課程に2021年4月の入学した外国人留学生
 - (2)各連携大学の学士課程に2021年4月以前に入学した外国人学生
- ※ 上記(1)，(2)について，日本人学生の受講も可

6. 募集人数

上限は設けない。

7. 受講申込及び受講方法

受講希望者は，所定のウェブサイトより，

2021年4月8日（木）10：00～5月13日（木）13：00の間に受講申込を行う。

<https://docs.google.com/forms/d/1emPWOC1vUXDC7YxvUKYSRmgQEorePia5c6kJ1NpZocE/edit>

プログラム開始約1週間前を予定して，北海道大学より各連携大学へeラーニングアカウントが記載されたID通知書をメールにて送付，各受講者はそれを受領すると共に，各自事前にeラーニング開始に係る説明動画を視聴した上でプログラムを受講する。説明動画の視聴方法等については，プログラム事務局より受講者本人へ直接案内する。

8. 費用

受講者負担：なし


連携大学負担：なし

北海道大学負担：教材作成にかかる講師謝金等プログラム実施に必要な経費

9. 個人情報の取り扱い

本プログラムを受講する学生の個人情報については，本プログラム運営の目的に限って利用する。

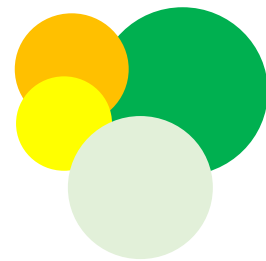
以上



2021年準備教育 学部プログラム シラバス

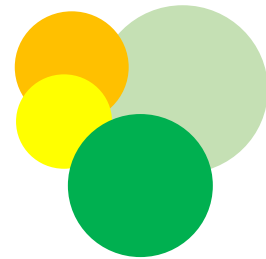
- ・ ICTスキルアップ講座
- ・ アカデミックジャパニーズ —レポートの文体—
- ・ 大学1年生のためのスタディ・スキル

ICTスキルアップ講座



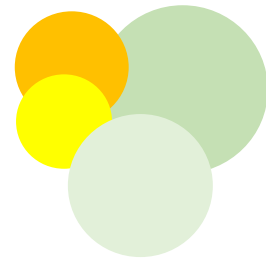
| | |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講師名 | 伊藤 孝行 (いとう たかゆき) |
| 所属、職名 | 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院、准教授 |
| 講師紹介 | <p>宮城県仙台市生まれ。國學院大學大学院博士課程後期修了。博士(文学)。専門は国語学、日本語教育。</p> <p>タイ国立タマサート大学教養学部日本語学科・同大学院日本学研究科外国人専任講師、財団法人交流協会台北事務所文化室日本語センター日本語専門家、公立大学法人名桜大学国際学群上級准教授を経て、現在、国立大学法人北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授。</p> |
| コース概要 | 実りある学生生活を送るために、時間管理能力を洗練していくことが望まれる。このコースでは、ショートカットキーと検索術の2編に分けて紹介する。時間管理能力の洗練を少しだけ後押しする。 |
| コースの目標 | <ul style="list-style-type: none">・ショートカットキーを覚え、自分のスキルにする。・検索術を覚え、状況に応じて適切な検索術を使う。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none">・ショートカットキーを覚え、実際に操作することができる。 例：コピー、貼り付け、元に戻す、すべて選択、上書き保存等・自分の欲しい情報をより早く・効率よく検索することができる。 例：不要情報を除いた検索、ファイル形式をしばらくこむ検索、ドメインを指定してしばらくこむ検索等 |
| 平均学習時間 | 約60分(ショートカットキー編：約20分、検索術編：約40分) |

アカデミック・ジャパニーズ ー レポートの文体 ー



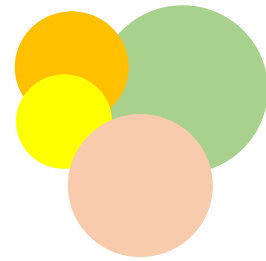
| | |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講師名 | 小林 由子 (こばやし よしこ) |
| 所属、職名 | 北海道大学高等教育推進機構国際教育研究部、教授 |
| 講師紹介 | もともとの専門は心理学です。国際教育研究部では「中級理解」「文章表現」「漢字語彙」「考え方の技術」「文化としての日本マンガ」、日本人学生向けの科目としては「レポートのための基礎日本語」などの科目を担当してきました。日本語を「きちんと考えて」使うお手伝いをしたいと思っています。 |
| コース概要 | 大学での「レポート」などを書くときに使う中立的・客観的な文体について基礎的なことを学びます。学習した後、確認テストをします。 |
| コースの目標 | 以下の項目について、レポートなどにおける適切な文体を知り、使えるようになる。 <ul style="list-style-type: none">・ 「だ・である体」の文末・ 文の接続・ 客観的・中立的な文・ 意見の述べ方・ 数値や程度を表す表現・ 注意すべき名詞/形容詞/副詞/連体詞/助詞相当句・ その他レポートで使わない方がいい表現 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none">・ レポートなどに中立的・客観的な文体を使うことを知る。・ 中立的・客観的な文体を見分けることができる。・ 中立的・客観的な文体をある程度使うことができる。 |
| 平均学習時間 | 3時間 |

大学1年生のためのスタディ・スキル ～大学での学び方～



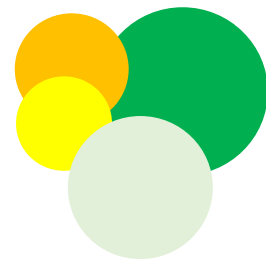
| | |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講師名 | 北海道大学 高等教育推進機構 高等教育研修センター ラーニングサポート部門 |
| 講師紹介 | ラーニングサポート部門は北海道大学に設置されている学生支援組織の1つであり、正課外での学習相談や学習スキルセミナーの開催など、学生の主体的な学習を支える活動を展開しています（HP： https://lso.high.hokudai.ac.jp/ ）。 |
| コース概要 | 大学では主体的・自律的な学びが求められます。本コースでは大学でより良い学修を進めるための心構えや有効なスキル、履修に関する注意点を解説します。コース内で扱うテーマは以下の3つです。 <ul style="list-style-type: none">・ 高校までの学びと大学からの学び・ より良く授業を受けるために・ 履修の方法 |
| コースの目標 | 自分自身の学びのスタイルについて反省し、より良い学びについて考える。授業の意義を再確認し、有意義なノートテイクの方法について考える。大学における履修の仕組みを理解する。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none">・ 大学において推奨される学びのスタイルを説明できる・ 適切なノートテイクを実践できる・ 履修計画の設計から単位取得までの流れを説明できる |
| 平均学習時間 | 15分 |

大学1年生のためのスタディ・スキル ～レポートの書式と引用～



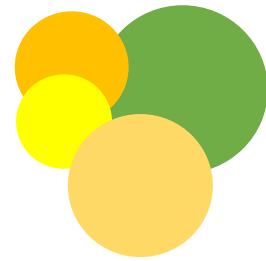
| | |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講師名 | 北海道大学 高等教育推進機構 高等教育研修センター ラーニングサポート部門 |
| 講師紹介 | ラーニングサポート部門は北海道大学に設置されている学生支援組織の1つであり、正課外での学習相談や学習スキルセミナーの開催など、学生の主体的な学習を支える活動を展開しています（HP： https://lso.high.hokudai.ac.jp/ ）。 |
| コース概要 | 大学では数多くのレポートを作成する機会があります。本コースでは、レポートを作成する際に留意しておくべき基本的なルールやマナーを解説します。コース内で扱うテーマは以下の3つです。 <ul style="list-style-type: none">・ レポートの位置付け・ 用紙と体裁・ 引用のルール |
| コースの目標 | 適切な用紙・体裁を用いてレポートを書くことができるようになる。レポートを作成する際に文献を正しく引用できるようになる。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none">・ 適切な用紙・体裁でレポートを書くことができる・ 出典の明示方法を理解し、適切に引用を行うことができる |
| 平均学習時間 | 20分 |

大学1年生のためのスタディ・スキル ～論説型レポートの書き方～



| | |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講師名 | 北海道大学 高等教育推進機構 高等教育研修センター ラーニングサポート部門 |
| 講師紹介 | ラーニングサポート部門は北海道大学に設置されている学生支援組織の1つであり、正課外での学習相談や学習スキルセミナーの開催など、学生の主体的な学習を支える活動を展開しています（HP： https://lso.high.hokudai.ac.jp/ ）。 |
| コース概要 | 皆さんはやがて大学での学びの集大成として卒業論文を作成することになります。本コースでは論文作成の基礎となる論説型レポートについて、テーマ設定や構成、文献収集のヒントを解説します。コース内で扱うテーマは以下の3つです。 <ul style="list-style-type: none">・ 論説型レポートとは何か・ テーマ設定と文献収集・ 論説型レポートを書く |
| コースの目標 | 論説型レポートの作成において、自らテーマを設定し、学術的な文章の構成を伴って自分の主張を文章化できるようになる。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none">・ 論説型レポートとはどのような文章か説明できる・ 自分でテーマを設定し、文献を集めることができる・ 序論・本論・結論の三部構成で論説型レポートを書くことができる |
| 平均学習時間 | 20分 |

大学1年生のためのスタディ・スキル ～実験レポートの書き方～



| | |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講師名 | 北海道大学 高等教育推進機構 高等教育研修センター ラーニングサポート部門 |
| 講師紹介 | ラーニングサポート部門は北海道大学に設置されている学生支援組織の1つであり、正課外での学習相談や学習スキルセミナーの開催など、学生の主体的な学習を支える活動を展開しています（HP： https://lso.high.hokudai.ac.jp/ ）。 |
| コース概要 | 自然科学実験や心理学実験を始めとする科目を受講すると、実験毎のレポート提出が課題となります。実験レポートの作成は（実験系分野に限らず）卒業論文を書くための訓練にもなります。本コースでは実験レポートの作成に関するヒントを解説します。本コースで扱うテーマは以下の3つです。 <ul style="list-style-type: none">・ 実験レポートとは何か・ 実験レポートの構成・ 図・表の書き方 |
| コースの目標 | 実験レポートの基本的な構造を理解し、図・表を適切に用いて実験レポートを作成できるようになる。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none">・ 実験レポートの目的や意義について説明できる・ 目的・方法・結果・考察の4項目について、実験レポート作成時の要点を説明できる・ グラフ用紙の使用を含め、図・表を適切に用いることができる |
| 平均学習時間 | 25分 |